

島根県雲南市木次町上熊谷方言の立ち上げ詞

水谷 信明

I. はじめに

1. 調査対象地：雲南市木次町は、島根県東部・出雲地方のほぼ中央にあり、出雲市からヤマタノオロチ神話の舞台、斐伊川沿いに約 25km さかのぼったところに位置する。上熊谷は、昭和 27 年まで飯石郡飯石村、昭和 29 年からは飯石郡三刀屋町であったが、上熊谷の中ノ段地区と正理地区とが、昭和 32 年に町村合併により、大原郡木次町に入った。さらに、平成 16 年 11 月 1 日に、木次町は、大原郡加茂町・大東町、飯石郡三刀屋町・掛合町・吉田村とともに、「平成の大合併」により、雲南市となった。人口約 45,000 人の雲南市の中心部は、高速道路松江自動車道の三刀屋・木次インターチェンジ付近、国道 54 号線沿いになりつつある。調査地の上熊谷は、以前は農業・紙すき等自営業が多かったが、現在は会社勤め、あるいは老人の一人・二人暮らしの家が多くなってきている。
2. 調査年月日：2005 年 12 月 29 日 午後 3 時から午後 6 時半まで
3. 話者：水谷正吉（大正 15 年 1 月 3 日生）、水谷敏子（昭和 3 年 10 月 27 日生）
4. 調査者・調査場所：水谷信明・水谷正吉・敏子宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. その他：①アクセントは、棒引きアクセント。高さの山に棒を引く。
②必ずしも統一質問文の通りでなくても、回答された文例はなるべく多くを掲げることにした。話者のコメント、調査者の気づきは〈 〉内に記した。
③本文中では、話者の水谷正吉を M、水谷敏子を T と略記する。

II. 調査結果

I. 自己の自発的な行動を立ち上げるために、自己に向かって発信する「立ち上げ詞」

(1) どっこいしょ。一休みしよう。

- ア、ドッコイショ。/ア、ドッコイドコイ。/ドッコイサノコイ。/ドッコイ、ホイショ。/アア、ヤーレヤレ。チョッコシ タバコシー カ。ああ、どっこいしょ。/ああ、やれやれ。少し休憩しようか。

(2) どうれ、出かけることにしよう。

- サーテ ソロソロ デカケー カ。さて、そろそろ出かけようか。

(3) よいこらしよ。とうとう山の天辺に着いた。

- ドッコイショ。トート、テンコマデ アガッタ。どっこいしょ。とうとう（山の）てっぺんまで上がった。

- (4) しまった。もうちよつとで落ちるところだった！
 ○シマワカ^イタ コトシタ ノ。モー チョンボシデ オチートコダッタ。しまったことをしたなあ。もう少しで落ちるところだった。
- (5) くわばらくわばら。恐ろしかった！
 ○オゾヤ オゾヤ。オゾカッター。恐ろしや、恐ろしや。恐ろしかった。
- (6) しめた！今度の魚は大きいぞ。
 ○ヤッター。コンドン サカナワ ガイナ ソ。/コンドン サカナワ オーケナ ゾ。やったぞ。今度の魚は大きいぞ。
- (7) ままよ。飛び越えるしかない。
 ○ドゲデモ エ ワ。/ドゲデモ エー ワ。ドーセ トビコエナ エケン。どうでもいいよ。どうせ、飛び越えなくてはいけない。
- (8) なにくそ！負けてなるものか。
 ○ナニクソ。マケーモン カ。なにくそ。負けるものか。
- (9) しめしめ！誰も気がついていない。
 ○シメタ。ダレンモ キガ チーチョラン。(M) /ダレンモ キガ チートラン。(T) /ダレンダイ キガ チカンサナ。しめた。誰も気がついていない。/誰も気がついていないようだ。(Mは「チョル」、Tは「トル」になっている。以後の文例についても、同様の傾向にある。)
- (10) ちえっ。つまらないなあ。
 ○ナングカイ。チマラン ノー。(M) /チマラン ナー。(T) /チマーヘン ガ。なんだ。つまらないなあ。/つまらないなあ。/つまらないよ。
- (11) ちくしょう！仕返しをしてやる。
 ○コンチクショー。/チクショ。オボイチョレ ヨ。(M) /オボイトレ。(T) /ヤツチャーケン。(M) ちくしょう。覚えているよ。/ (仕返しを) してやるから。(この場合も、MとTとで「チョル」と「トル」の違いが出てきている。)
- (12) くそっ！覚えている！
 ○ナニクソー。/クソー。/クソッタレ。オボイチョレ。(M) /オボイトレ。(T) なにくそ。/くそっ。覚えている。
- (13) おやおや、いったいどうしたの。
 ○アララ、ドゲシタ カイ。(M) /ドゲシタ カネ。(T) おやおや、どうしたか。/どうしたかね。
- (14) えへん、えへん。吾輩は村一番の力持ちじゃ。
 ○オラガ ムラデ エチバン ガイナケン。わしが村で一番頑強だから。(「えへん、えへん」に相当する言葉が出てこない。)
- (15) はてな、ここはどこだろう？

○サーテ ナー。ハテ ナー。ココワ ドコダラ カ。さてな。ハてな。ここはどこ
だろうか。〈今は「サーテ ナー。」の方を使う。もう少し年配の人が「ハテ ナー。」
を使いやすいとのこと。〉

II. 他者の発話に呼応して、応答の発話を立ち上げる「立ち上げ詞」

(16) はい、承知いたしました。

○ハイ、ワカーマシタ。はい、わかりました。

(17) はい、宜（よろ）しゅうございます。

○ハイ。ヨゴザエシ。/ヨゴザエシケン ネ。/ヨー ゴザイマス。/ヨロシュー ゴザイ
マス。はい。ようございます。/ようございますからね。/ようございます。/よろしゅ
うございます。〈Tによると、「ゴザエシ」は隣近所のおじさん・おばさんに対しての
もの、「ゴザイマス」は、改まったよそいきの言葉づかいとのこと。〉

(18) ええ、ここに居ます。

○ハイ、ココン オーマシ。/オーマシ ガ。はい、ここにいます。/いますよ。

(19) んだ。私の傘です。

○オン。オラン カサダ。/オラガイチダ。うん。わしの傘だ。/わしのやつ（傘）だ。

(20) さよう、さよう。あなたの言う通り。

○アゲ アゲ。アンタノ イーヤナ コトダ ワ。(T) /アゲダ アゲダ。オマエガ イ
ートーリダ。(M) そうそう。あなたの言うようなことだよ。/そうだそうだ。おまえ
の言う通りだ。

(21) ほいきた。おやすいご用です。

○ハイ ハイ。メヤシコトデシ ガ。はいはい。簡単なことですよ。

(22) よっしゃ。やりましょう。

○ヨーシ、ホンナラ ヤーマシヨ カー。よし。それなら、やりましょうか。

(23) よしきた。お引き受けたいしましょう。

○ホンナラ、ヨロコンデ ヤーマシ ワ。/ヤラシユテ モライマシ ワ。それじゃあ、
喜んでやります。/喜んでやらせてもらいます。

(24) がってんだ。一緒に行きましょう。

○ホンナラ ワカーマシタ。イッシヨン エキマシヨ。/イッシヨン エキマス。そ
れじゃあ、わかりました。一緒に行きましょう。/一緒に行きます。

(25) かつばのへだ。簡単だ。

○マー、メヤシ コトダ ワ。まあ、簡単なことだよ。〈「かつばのへだ。」に相当する
表現が出てこない。〉

(26) いえいえ、とんでもございません。

○イヤー、レー エツテ モラーヤナ コトデモ アーマシエン。メヤシ コトデシ
ガネ。いや、お礼を言ってもらうようなことでもありません。簡単なことですよ。

(27) なんの、たいしたことではございません。

○ナンガネ、メヤシ コトデシ ガネ。なんの、簡単なことですよ。

(28) なあに、擦り傷(すりきず) ぐらい、すぐ治るさ。

○ナントダイ アーヘン ガ。カシーキジグライ ジキ ナオー ワナ。なんともありやしないよ。かすり傷ぐらい、すぐに治るよ。

(29) なにさ、いつも調子の良いことばかり言って！

○ナンダカイ。/ナニ エットー カイ。(T) /ナニ エッチョー カイ。(M) エチモ
チョーシノ エコトバック エツテ。どういうことだ。/何を言っているんだ。/いつも調子の良いことばかり言って。

(30) いやはや、とんだ目に遭(あ)いました。

○マージ マジ。(M) /マージ。(T) /ナント マー。エライ メニ アイマシタ ワ。
まあ、なんと。/まあ。/なんと、まあ。たいへんな目に遭いましたよ。

(31) へん、勝手にしやがれ。

○カッテン シェ。/カッテニ シェ。勝手にしろ。<「へん」に相当する表現が見つからない。>

(32) なめるんじゃねえよ。こいつ！

○ヒトー バカニ スーテテ ホドガ アー。イーカゲンニ シェー。(M) /ナニ イ
ットラ。/イットーダラ。オマエワ。(T) 人を馬鹿にするにもほどがある。いい加減にしろ。/何を言っているんだ。おまえは。

(33) 冗談じゃない。口から出任せを言って！

○ナンダカイ。ワケノ ワカラン コトバック エツテ。なんだというのか。わけのわからないことばかり言って。

(34) だまらっしゃい。出鱈目(でたらめ) ばかり言って！

○ダマラっしゃイ。ジャジャバック エツテ。だまらっしゃい。でたらめばかり言って。

(35) そうは間屋がおろさねえ。黙っていらねえ。

○ソギャンコタ エケン。ダマツショラレン。(M) /ダマツトラレン。(T) そんなことはいけな。黙っておられない。

(36) うそもへちまもありやしねえ。我慢(がまん) できねえ。

○ウソモ ヘチマモ アーモンダナイ。/アッタモンダナイ ワ。/アッタモンダネ ワ。
ガマン デキン。うそもへちまもありやしない。/あったものではない。我慢できない。

(37) 寝言は寝ていえ。このやろう。

○ネゴトワ ネテ イエ。/ナニ イークサー カ。/ナニ イッチョー カイ。コナイ
チメガ。寝言は寝て言え。/何を言いやがるか。/何を言っているんだ。あのやろうめ。

(38) あたりきしやりきのけつ^アのあな。当たり前だ！

○アターマエノ コトダ ガノ。当たり前のことだよな。〈「あたりきしやりきのけつ
のあな」に相当する表現が出てこない。〉

(39) きみようきてれつだ。それは変だ。

○ソラ オカシ。/オカシゲナ ハナシダ ノ。それは、おかしい。おかしげな話だな。
〈「きみようきてれつだ」に相当する表現がみつからない。〉

(40) ほほう、それは親孝行なお子さんですね。

○ホーン。ソラ マタ エー コドモサンダ ネ。/ソラ ヨー デキタ コドモサン
デシ ガネ。(M) /ソラ マタ エー コドモサンデ。(T) ほう。それはまた、いい
子どもさんだね。/それはよくできた子どもさんですね。/それはまた、いい子どもさ
んで。

(41) まいったまいった。しかたがない。

○マイッタ ノー。ドゲシヨヤモナイ。/ドゲシヨヤモネ ガノ。まいったなあ。どう
しようもない。/どうしようもないよな。

III. 他者との関係を立ち上げるために、他者との言語情報を結節する「立ち上げ詞」

(42) もしもし、すみません。役場はどこにありますか。

○チョッコ シンマシエン。(M) /チョット シンマシエンガ。(T) ヤクバリ ドノミ
チ エキタラ エダラ カネ。(M) /ドゲ エキタラ エーデシ カイネ。(T) ちょ
っと、すみません。/ちょっとすみませんが。役場はどの道を行ったらいいだろうか
ね。/どう行ったらいいですかね。

(43) のうのう、旅の人。お立ち寄り下さい。

○ソコノ シ、ヨラッシャイ。/ヨッテ エカッシャイ。(M) /ヨッテ エカッシャ
ンカ。(T) その人、お立ち寄りなさい。/立ち寄ってお行きなさい。/立ち寄って行
かれませんか。〈「のうのう」に相当する表現が出てこない。上熊谷のような農村部
では旅のお客に声をかけたこともない、とのこと。〉

(44) ほら、ご覧なさい。向こうに公園があります。

○アレ ミナハイ。アッチン コーエンガ アーマシ。あれをご覧なさい。あちらに
公園があります。

(45) やいやい。こんなに朝早くからどこへ行くんだ？

○オイ、ユゲン アサマトーカラ/アサマハヤカラ (M) /アサマハヨカラ (T) ドコエ
エク カイ。おい、こんなに朝早くからどこへ行くのか。

(46) よう、兄弟。これから何をするつもりだい？

○オイ、オマエ。/オイ コラ。コーカラ ナニ シーテテ。おい、おまえ。/おい、
こら。これから何をするつもりか。

(47) いざ、さらば。

- ホンナラ、サイナラ。/ホンナラ マタ アワコイ。それじゃあ、さようなら。/それ
じゃあ、また会おう。
- (48) ささ、ご遠慮無く、召し上がって下さい。
 ○マー、ジギシエシトン トツテ ゴシナハイ。(M) /サーサツ、ソコ トツテ ゴシ
ナハイ。まあ、遠慮しないで (料理を) 手に取って下さい。/さあさあ、そこ (の料
 理を) 手に取って下さい。
- (49) さて、そろそろ一服しませんか。
 ○ホンナー、ボチボチ タバコサ ヤ。(T) /ホンナ、タバコシテ ヤーマシヨー。(M)
 それじゃあ、そろそろ一休みしようや。/それじゃあ、休憩して (仕事をまた) やり
 ましょう。
- (50) これこれ、ちょっと静かにしなさい。
 ○コラ コラ、モ チト オダエカニ シエ。(M) /チト ダマツトラツシヤエ。(T)
 こらこら、もう少し穏やかにしろ。/少し黙っていなさい。
- (51) おい、こら。万引きをしてはいけない。
 ○オイ コラ。ヒトノモン トツチャ エケンジ ヨ。/ダマツテ トーモンダナイ ガ
ー。おいこら、他人の物を盗 (と) ってはいけないよ。/黙って盗るものではないよ。
- (52) おどりゃあ。いい加減にしないか！
 ○コラ オマエ。ナンベン エツタラ ワカーダラ。こら、おまえ。何回言ったらわ
 かるのか。
- (53) おのれ、裏切りやがったな。
 ○コナイチガ。ダマシヤガッタ ナ。/ドマカイタ ナ。あのやろうめ。だましやがっ
 たな。
- (54) どっこい。その手には乗らない。
 ○ナニ エツチョー カネ。ダマサレーヘン ゾ。(T) /ドマカサレン ゾ。(M) 何を
 言ってるんだ。だまされないぞ。
- (55) どうだ、参ったか？
 ○ドゲダ、コーサン カ。(M) /ドゲ カイ。マイツタ カ。(T) どうだ、降参か。/
 どうだ、参ったか。
- (56) せいの、よいしょ！
 ○セーノー、ヨイシヨ。せいのう、よいしょ。〈Mの話では、「ヨイシヨ」の部分が「ヨ
 ッコラシヨ」では、力が入らず、車は動かない、とのこと。〉
- (57) ようい、どん！
 ○ヨーイ、ドン。ようい、どん。
- (58) いっせいの、で！
 ○セーノーデ、ヨイシヨ。/セーノー、ヨイシヨ。せいのうで、よいしょ。/せいのう、

よいしょ。

(59) よいしょ、よいしょ、もう一息だ！

○ヨイシヨ ヨイシヨ。モー チョンボダ。(M) / モー チョンボシダ。(T) よいしょ、よいしょ。もう少しだ。

(60) うんとこしょ、どっこいしょ。もう少しだ。

○ヨイシヨ、ヨイシヨ。モー チョンボダ。(M) / モー チョンボシダ。(T) よいしょ、よいしょ。もう少しだ。(〈(59) と (60) とで、表現に差がない。〉)

(61) わっしょい、わっしょい、祭りだ、わっしょい。

○ワッショイ、ワッショイ。わっしょい、わっしょい。(ただし、当地には、みこしをかつぐような祭りはない。「ワッショイ」は、木をかつぐ場合、木を動かす場合に使う、とのこと。)

(62) はじめはぐう、じゃんけん、ぼん！あいこでしょ。

○ジャンケン ポン、アイコデシヨ。じゃんけんぼん、あいこでしょ。(「はじめはぐう」に相当する言葉はない、とのこと。)

(63) きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

○キオ チケー、マエー ナライ、ナオレ。きをつけえ、まえへならえ、なおれ。

(64) きりつ、れい、ちゃくせき。

○キリツ、レー、チャクシエキ。きりつ、れい、ちゃくせき。

(65) ばんざい、ばんざい。やった、やった！

○バンザーイ。ヤッタ ノー。ばんざい。やったなあ。

(66) えいえいおう。頑張るぞ。

○ガンバー ゾ。頑張るぞ。(「えいえいおう」に相当する言葉がない、とのこと。)

(67) 中村君の誕生日を祝して、かんぱい。おめでとう。

○ナカムラクンノ タンジョウビオ イワッテ、カンパーイ。オメデトー。中村君の誕生日を祝って、かんぱい。おめでとう。

(68) やっほう、やっほう。

○ヤッホー、ヤッホー。やっほう、やっほう。

(69) ふれえ、ふれえ、白組。

○フレー フレー、シーローグーミ。ふれえ、ふれえ、白組。

(70) おにはそと、ふくはうち。

○フクワ ウチ フクワ ウチ、オニワー ソト、オニワー ソトー。福は内、福は内、鬼は外、鬼は外。

(71) べらぼうめ、とんでも無い子だ。

○ナンチー コダ。なんという子だ。(「べらぼうめ」に相当する表現は、見当たらない。)

(72) それみたことか、わんぱく坊主。

○ホラ マツシヤイ。|ホラ ミー。(T) |ソラ ミー。(M) エケジンゴ ガ。それみなさい。|それみろ。いたずら小僧め。

(73) ざまあ、みろ。いい気味だ。

○ホラ マツシヤイ。|ホラ ミー。(T) |ソラ ミー。(M) キサンジ。それみなさい。|そらみろ。いい気味だ。

(74) ちくしょうめ、ひどいことを言いやがる。

○コンチクショ、ナンチーコト イー カイ。|ナンチーコト イー カイノ。こんちくしょう、なんということを言うのか。|なんということを言うのかな。

(75) このやろう。どうしてくれようか。

○コナイチメガ。ドグシチャラ カイ。|ドグシテ ヤー カ。あのやろうめ。どうしてやろうか。|どうしてやるか。

(76) たわけ、ふざけた事を言うんじゃない。

○ダラクソガ。|ダラジガ。フザケーナ。|ナニ エツチヨー カイ。ばかものめ。ふざけるな。|何を言っているんだ。

(77) ばかやろう、いい加減なことを言うな。

○ダラジガー。|ダラクソガー。エーカゲンナコト イーナ。|ダラチケナコト イーナ。ばかものめ。|ばかものめが。いい加減なことを言うな。|ばかげたことを言うな。

(78) あなかま、静かにしなさい。

○ヤカマシ。シズカン シェ。(M) |シズカニ シェ。(T) やかましい。静かにしろ。

(79) しいいっ、静かにして！

○シズカン シェ。|シズカン シテ。静かにしろ。|静かにしてよ。〈「しいいっ」に相当する言葉がない。ただし、昔の子どもは、「しいいっ」などが通用するほど、おとなしい子はいなかった、とのこと。〉

(80) ちちんぷいぷい、蛙、蛙、生き返れ。

○カエル、カエル、イキカエレー。蛙、蛙、生き返れ。〈「ちちんぷいぷい」に相当する表現はない。実際に蛙をつかまえて、こういう行為をしたことがない、とのこと。〉

(81) あっかんべい、鬼さん、こちら。

○アーカンベー、オニサン コチラ。テノ ナル ホーエ。あかんべえ、鬼さん、こちら。手のなる方へ。

(82) あっばれ、お見事。立派です。

○ナーント、ダイシタモンダ、エライ。なんと、たいしたものだ。えらい。

(83) でかした、でかした。日本一。

○ヨー ヤッタ ノー。ミゴトナモンダ。ニッポンイチ。よくやったなあ。見事なものだ。日本一。

(84) しっけい! すみません。

○ソソー シマシタ。(M) /シツレー シマシタ。(T) シンマシエン。粗相しました。
/失礼しました。すみません。

(85) あばよ、達者でな。

○サイナラ。マ、マメデ ノ。/マ、マメデ マタ アワコイ。さよなら。まあ、元気でな。/まあ、元気で、また会おう。

Ⅲ. 総括 (まとめ)

1. 調査項目 (5) 「くわばらくわばら」(25) 「かっぱのへだ」(38) 「あたりきしやりきのけつのあな」(80) 「ちちんぶいぶい」に相当する表現がない。冗談を言うことが多い人を「ヒョーゲマチ (おどけ者)」と評価する当地にあつて、言葉遊び的な表現は、なじまないのではないかと考える。
2. 調査項目 (31) 「へん」(39) 「きみようきてれつだ」(66) 「えいえいおう」(71) 「べらぼうめ」に相当する表現もない。感情をむき出しにすることを好まない土地柄を反映していると見ることができる。
3. 調査項目 (43) 「のうのう」に相当する言葉も出てこない。農村部の生活において、見ず知らずの旅の人に話しかける言葉は、おそらく必要とされないだろう。
4. 調査項目 (62) 「はじめはぐう」に相当する言葉もない。互いの気持ちを思いやることを第一に考えるような土地柄にあつては、いきなり用件から入つても、さしつかえないかもしれない。子どもの遊びの中にも、大人の生活ぶりの反映が見える。
5. M と T とで表現に違いが見られるのは、男女差によるものもあるだろうし、仕事などで、どういう人とつき合うことが多かったかによるものもあるだろう、と考える。

(みずたに のぶあき 島根県立出雲商業高等学校)